

連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2020.2 vol. 166

令和元年度

## 鹿児島脳卒中看護エキスパートナース研修を開催して

鹿児島医療センターでは、脳卒中の専門施設として脳卒中看護エキスパートナース研修を開催しております。去る令和元年11月25日～11月29日の5日間、当院3名、近隣施設7名の看護師に参加していただき、今年度で9回目の研修を開催いたしました。

昨年度、「脳卒中・循環器病対策基本法」が制定され、地域全体での脳卒中診療の質の向上が求められています。そのため、チームにおける看護師の役割は重要であり、今回の研修では、脳卒中看護の質の向上を図るため、専門的知識・技術・態度を習得し、より専門性の高い看護実践ができる能力を育成することを目的に研修を企画しました。脳卒中の動向、病態生理、治療、検査などの基礎知識をはじめ、重篤化回避のためのモニタリングとケア、セルフケア能力を高めるためのリハビリテーション看護、脳卒中患者のフィジカルアセスメント、再発予防の患者家族ケア、認知症患者・家族の看護など講義や演習、病棟での見学実習で理解を深めることができたのではないかと思います。

また、今回の研修では急性期・回復期・維持期の施設から研修生が参加され、研修を通してそれぞれの立場での看護の役割について学び、事例検討では患者を生活者として支援するための継続看護の重要性を考え、「その人らしさ」を大切にされた看護介入について活発な意見交換ができました。

今後、研修生には各施設で脳卒中患者の看護実践を通して役割モデルとなり、患者個々に応じた自立支援を行うための医療チームのコーディネーターとなり活躍されることを期待しています。また、この研修で培った絆を大切に、今後、鹿児島県の脳卒中看護の連携も強化していただけることを願っています。

この研修が更なる脳卒中看護の質の向上、脳卒中地域連携におけるネットワークの強化につながるように今後も企画、検討を重ねていきたいと考えております。

最後に、研修の開催にあたりご尽力いただきました、院内外の講師の方々に深く感謝いたします。

(文責：東2階病棟副看護師長 井手 智子)





# 令和元年度 緩和ケア研修会

令和2年1月12日（日）に、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校において、第12回鹿児島医療センター緩和ケア研修会を開催致しました。

受講生は、研修医2年目から臨床経験36年までの医師23名、多職種（看護師、薬剤師、理学療法士）6名の方々にご参加頂きました。今回の研修会は、講師として今給黎総合病院緩和医療科の小玉哲史先生をお迎えし、例年通りコミュニケーションのセッションを担当していただきました。当院からは医師7名、看護師6名、薬剤師1名、医療ソーシャルワーカー1名の御協力を頂き、円滑に進行することができました。

緩和ケア研修会に e-learning が導入され2年目となりましたが、昨年同様、参加者全ての e-learning 修了の元、1日間のスケジュールとなっています。内容は e-learning の振り返りに始まり、コミュニケーションに関するロールプレイ、グループワークでは症例を通して緩和ケアの対策、さらにその後の療養場所の選択と地域連携の検討など、受講生の皆さんにとっては充実した内容であったと思います。特にグループワークでは受講生の皆さんから多くの活発な意見が聞かれたことが印象的でした。またがん治療を経験された方をお招きし、その時期に感じたことなど、貴重なお話を聞かせていただきました。一方で、e-learning 修了から時間が経過していることから、内容を再確認するための振り返りのセッションの時間不足が指摘されており、これは今後の課題と考えられました。

この研修会を通じて、参加者、協力者ともに多くの学びを得て頂いたこと、緩和ケア、がん診療に関わる多職種の方々の交流が図れたことは、非常に収穫であったと思います。

また御協力頂いた全ての皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。研修会は今後もさらに内容を充実させ開催していく予定ですので、御参加御協力をよろしくお願い致します。

（文責：研修会企画責任者 原口 浩一）



# 大規模 災害訓練

## 第4回目の大規模災害訓練を終えて



去る11月30日土曜日に大規模災害訓練を実施いたしました。当院で毎年行うようになって、今回は4回目になりました。桜島を震源とした震度5強の地震が発生したという想定は変わりませんが、今回は停電となり自家発電に切り替わった中で被災患者を受け入れる想定を致しました。回数を重ねるごとに参加者が少ないのではないかと危惧しておりますが、今回も約150名の職員の参加があり、災害時対応への意識の高さは維持されていたことに一安心致しました。事前打ち合わせで、熊本地震を経験したスタッフから、職員の参集に関する体制の把握の必要性や、昨年までの反省点等を再確認し、自家発電時には当院のCTなどの大型医療機器が稼働できないことや、インフラ機能が低下する際の問題等を共有することができました。

訓練では、各エリアの立ち上げなどスムーズに進行でき、指摘された問題点も改善されてきていましたが、診療機能の低下の中での医療展開や患者搬送への対応（これは自院だけの訓練では限界があるかと思いますが）等、新たな問題点も確認できました。今回も鹿児島市立病院救急救命センター部長吉原秀明先生に評価者としてお越しいただき、当院の訓練がより良いものになっているとお褒めの言葉をいただきましたが、“訓練だからできていること”と、“万が一災害が起きた時の対応で考えなければならないこと”をご指摘いただきました。また、熊本医療センター救命救急・集中治療部医長の北田真紀先生にも評価者としてお越しいただき、熊本地震の経験から対応の実際について改善すべき問題を多くご指摘いただきました。また、短時間でしたが、震災時の状況、発生する問題等をスライドで説明していただき、訓練の必要性も再認識できました。

今回も模擬患者として、多数の当院附属看護学校学生に協力頂いたことをこの紙面を借りて感謝いたします。災害時に備えるには、院外施設との連携等がうまく機能するような訓練も必要となり、当院のDMATも研修等で充実してきていますので、今回の訓練で指摘された本部機能を、DMATメンバーを中心とした体制の構築で行い、改善できるよう検討したうえで訓練も継続していきたいと思っております。

（文責：統括診療部長 松崎 勉）





# 令和元年度 地域医療支援病院運営委員会 開催

令和元年度12月18日（水）、鹿児島医療センター大会議室において「地域医療支援病院運営委員会」を開催いたしました。

当院は『地域医療支援病院』の承認を受け、地域医療・救急医療に力を入れて運営を行っております。

会議には外部委員4名の方々にご出席いただき、院内委員6名を含めた計10名により意見交換がなされました。事務局より近隣医療機関との紹介や逆紹介の状況、救急車搬送・ドクターヘリ受入件数及び医療従事者向けの研修開催状況などが報告され、委員の方々より当院の運営について有益なご質問やご意見をいただきました。今回、委員の皆様より頂戴いたしました貴重なご意見を参考にして、今後も地域医療支援病院としての役割を果たして参ります。

（文責：経営企画室長 副島 一隆）



## 新任 紹介



### 皮膚腫瘍科・皮膚科レジデント 坂本 翔一

1月より皮膚腫瘍科・皮膚科レジデントとして勤務することになりました坂本翔一と申します。卒後3年目で和歌山県立医科大学皮膚科に入局しております。和歌山を離れるのは初めてですが、この鹿児島での生活が楽しみです。特に悪性腫瘍の診療においては、他科の先生方やコメディカルの皆様のお力添えがなくてはならず今後お世話になる機会が多々あるかと存じます。

初めての土地、不慣れな環境での勤務のためご迷惑をおかけするかと存じますが、精一杯頑張りますので何卒よろしくお願い申し上げます。



■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 蘭田・丹後田・西辻・吉永・迫田・椎原・出口・吉留・久保・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

